



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 8 月 1 日

氏名：石輪健樹

所属機関・職名：国立極地研究所・日本学術振興会 PD

活動の種類 (該当項目を残す)	4. 1st/2nd Post-expedition meeting
IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 356 Indonesian Throughflow
乗船時の役割	Physical Property Specialist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2017 年 7 月 15 日 ~ 2017 年 7 月 23 日
用務地 (国・都市)	ドイツ・ブレーメン
<p>本活動における成果</p> <p>2015 年に IODP Exp.356 が行われ、採取された試料を用いた研究を乗船研究者を中心に進めてきた。2nd Post-cruise Meeting は、航海後 2 年間の各自の研究成果を持ち寄り、それぞれの研究結果に対する議論および共同研究の可能性について Meeting を行った。2nd Post-expedition meeting は 7/16-7/18 の 3 日間行われ、午前中は口頭発表、午後はポスター発表と breaking discussion という日程が組まれた。口頭・ポスター発表の内容を踏まえて、今後の共同研究の可能性を breaking discussion で議論した。また、先行研究およびサイト間の比較に重要な年代モデル構築に関する今後の方針も立てることができ、共同研究を行える見通しがたった。また、3 日間の Meeting 後の巡検では、ドイツ北部において巡検が行われ、パーミアンの大陸棚における蒸発岩の堆積環境の変遷を追った。今後、私は最終氷期最盛期から完新世の気候変動復元を年代モデルの構築を始めとして研究を進めていく予定である。また、今年の AGU では Paleoclimate variability in the Indo-Pacific region のセッションが生まれ、IODP Exp.356 の成果に対するさらに深い議論が行われる予定である。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 8 月 8 日

氏名： 岩谷 北斗

所属機関・職名：香港大学・ポスドク研究員

活動の種類 (該当項目を残す)	2nd Post-expedition meeting
IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Expedition 356, Indonesian Throughflow
乗船時の役割	Sedimentologist
出張期間 (移動も含む)	2017 年 7 月 15 日 ~ 2017 年 7 月 23 日
用務地 (国・都市)	ドイツ・ブレーメン
本活動における成果	
<p>2017年7月に、MARUM (ブレーメン大学) にて実施された第2回ポストクルーズミーティング (IODP Exp. 356, Indonesian Throughflow) に参加した。本ミーティングは、2015年夏季におこなわれた IODP、Exp. 356 により得られたコア試料を用いた研究成果を報告し、研究者間で知見の交換・共有をおこなうことを目的としたものである。報告者は、おもに以下の2点について報告をおこなった。</p> <p>【貝形虫化石分析について】 現在までに少なくとも 10000 個体、200 種以上の貝形虫化石が得られている。産出した貝形虫の多くは、現在のオーストラリア周辺の上部浅海帯以浅で認められている現生種からなることが明らかになった。得られた貝形虫化石に対し統計的解析を適応した結果、その群集組成、多様性および個体数に数万~数十万年スケールの明瞭な周期的変化が認められた。</p> <p>【糞便ペレット分析について】 環形動物などの大型底生動物由来と考えられる糞便ペレットを現在までに 6000 個以上抽出している。得られた糞便ペレットの相対頻度を算出した結果、貝形虫化石の頻度と逆相関の変動を示すことが明らかになった。</p> <p>本ミーティングにて年代論や他プロキシとの比較などについて議論をおこない、重要な知見を得ることができた。また、あらたな共同研究についてプランニングをおこなった。引き続き、乗船研究者・陸上研究者と密に連携を取りながら、研究を進めていく予定である。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。



国際深海科学掘削計画 (IODP) 研究航海関連活動報告書

提出年月日： 2017 年 7 月 24 日

氏名：高柳栄子

所属機関・職名：東北大学大学院理学研究科地学専攻・助教

活動の種類 (該当項目を残す)	4. 1st/2nd Post-expedition meeting
IODP 研究航海番号 および航海名	IODP Exp. 356 Indonesian Throughflow
乗船時の役割	Inorganic Geochemist (例 Sedimentologist)
出張期間 (移動も含む)	2017 年 7 月 15 日 ~ 2017 年 7 月 23 日
用務地 (国・都市)	ドイツ・ブレーメン
<p>本活動における成果</p> <p>2015 年 7 月 31 日 (金) ~ 9 月 30 日 (水) の 62 日間に渡り、研究航海「IODP Expedition 356 Indonesian Throughflow」が開催された。今回は、航海後、本研究航海にて採取されたコア試料を用いて、各研究者がこれまでに実施した研究成果を報告するため、乗船研究者ならびに陸上研究者がブレーメン大学 (ドイツ・ブレーメン) に集まり、7 月 15 日 (土) ~ 23 日 (日) の日程で 2nd Post-expedition meeting ならびに巡検を行った。</p> <p>7 月 15 日 (土), 16 日 (日) は、ドイツ・ブレーメンに向けて移動した。</p> <p>7 月 17 日 (月) ~ 19 日 (水) は、3 日間に渡り、各研究者がこれまでに実施した研究成果を口頭もしくはポスター発表をした。私は、2 日目の午前中に「Oxygen and neodymium isotopes of Pleistocene foraminifers from IODP sites U1460 and U1463: preliminary results」という題目で口頭発表を行った。各自が最新の研究成果を持ち寄って活発に議論を行い、とても有意義であった。また、午後には各トピックに分かれて Break out discussion を行い、今後について研究打ち合わせを行った。</p> <p>7 月 20 日 (木) ~ 21 日 (金) は、ドイツ北部に分布する古生界 (石炭系・ペルム系) の陸棚斜面の堆積環境の変化とそこに堆積した堆積物 (炭酸塩岩) の堆積・続成史を観察するため、2 日間に渡って巡検を行った。そして、全ての行程を予定通り行い、22 日 (土) に帰途に着いた。</p>	
備考	

注意事項

1. 当報告書は出張終了後 2 週間以内に海洋研究開発機構研究推進部内 IODP/J-DESC 旅費サポートに E-mail (travel@j-desc.org) でご提出ください。